

## 第1回羽幌町総合教育会議 議事録

### 1 開催日時及び場所

- (1) 日 時 平成31年 2月12日(火) 16時30分から17時10分まで
- (2) 場 所 羽幌町役場 2階 幹部会議室

### 2 出席者及び欠席者の氏名

#### 【委員】

#### (1) 出席者

羽 幌 町	町 長	駒 井 久 晃
〃	副 町 長	今 村 裕 之
羽幌町教育委員会	教 育 長	山 口 芳 徳
〃	教育長職務代理	松 田 肇
〃	教 育 委 員	佐 藤 善 昭
〃	教 育 委 員	更 科 礼 子
〃	教 育 委 員	松 橋 英 輝

#### (2) 欠席者

なし

#### 【関係職員出席者】

羽幌町教育委員会	学校管理課長	春日井 征 輝
〃	社会教育課長	渡 辺 博 樹
羽幌町	地域振興課長	酒 井 峰 高

### 3 傍聴者

なし

### 4 議題

- (1) 教育行政に係る次の事項に関する情報提供と意見交換
  - ア 平成30年度全国学力・学習状況調査について
  - イ 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について
  - ウ その他
- (2) その他

### 5 会議の内容

別紙のとおり

## 【会議の内容】

### 1 開会（酒井地域振興課長）

省略

### 2 町長挨拶（駒井町長）

省略

### 3 議題

#### (1) 教育行政に係る次の事項に関する情報提供と意見交換

##### ア 平成30年度全国学力・学習状況調査について

資料に基づき下記のとおり説明（春日井学校管理課長）

（発言要旨）

調査の概要として、目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図るものとされている。対象は、小学校が6学年、中学校が3学年であり、内容は、児童生徒の教科に対する調査として、国語・算数(数学)・理科であり、知識に関する問題は「A」、活用に関する問題は「B」に区分されている。なお、理科は、3年に一度の調査であり、A・Bの区分はない。また、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査では、児童生徒と学校の双方が対象になっている。調査期日は、平成30年4月17日、調査校は、羽幌小学校・羽幌中学校・天売中学校の3校である。

児童生徒の教科に関する調査であるが、小学校の結果として、国語A全体の平均正答率は、全道と同程度であるが、全国を下回っており、前年度は、全道・全国を下回っていた。国語B全体の平均正答率は、全道・全国を下回っており、前年度も同様である。算数A全体の平均正答率は、全道・全国を下回っており、前年度は、全国を下回っていたものの全道を上回っていた。算数B全体の平均正答率は、全国・全道を下回っているが、その差は縮まっており、前年度も全道・全国を下回っていた。理科全体の平均正答率は、全国・全道を下回っているが、その差は縮まっており、前回(平成27年度)も全道・全国を下回っていた。中学校の結果であるが、国語A全体の平均正答率は、全道・全国を下回っており、前年度も同様であった。国語B全体の平均正答率は、全道・全国を下回っており、前年度は、全道・全国を上回っていた。数学A全体の平均正答率は、全国・全道を下回っており、前年度は、全道・全国を上回っていた。数学B全体の平均正答率は、全道・全国を下回っており、前年度は、全国を下回っていたが、全道を上回っていた。理科全体の平均正答率は、全国・全道を上回っており、前回(平成27年度)は、全道・全国を下回っていた。

以上が教科に関する調査であるが、全体的に前年度を下回る結果となっ

ている。

次に質問紙調査の結果であるが、はじめに児童・生徒に関するもので、小学校・中学校双方の主な傾向として、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている」という回答が多く、一方で「学校の授業時間以外に、一日あたりに勉強する時間」などの割合が少ない傾向となっている。学校に関する質問紙調査では、小学校・中学校ともに「教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」割合が多い傾向となっている。

今後の羽幌町における取組として、朝学習・放課後学習・朝読書・全校読書の実施や課題の配布などにより基礎学力の定着や向上を図る必要があるほか、学校の授業時間以外に一日あたりに勉強する時間が少ない傾向にあるため、「家庭学習のすすめ・手引き」の配付や生活リズムチェックシートなどの活用を保護者へ働きかけ、生活習慣の改善などにより時間を確保した上で、計画的・効率的に学力向上を図る必要があると考えている。

【主な意見、質問等】

特になし

イ 平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

資料に基づき下記のとおり説明（春日井学校管理課長）

（発言要旨）

調査の概要として、目的は、子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るものとされている。対象は、小学校第5学年、中学校第2学年であり、調査事項は、児童生徒に対するものとして、小学校は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とび・ソフトボール投げであり、中学校は、握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・20mシャトルラン・持久走(中学校では20mシャトルランか持久走のいずれかを選択)・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げのそれぞれ8種目による実技調査と、運動習慣・生活習慣等に関する質問紙調査を行っている。また、学校に対する質問紙調査として、子どもの体力向上に係る取組等が調査されている。なお、教育委員会に対し、子どもの体力向上に係る施策等に関する質問紙調査が行われているが、この結果報告には含まれていない。実施時期は、平成30年4月から7月末まで、実施校は、小学校は羽幌小学校・天売小学校の2校、中学校は羽幌中学校の1校となっている。

次に、体格・肥満に関する調査結果であるが、肥満・瘦身傾向として、小学校5学年男子では、正常の割合が全国・全道を下回り、肥満の割合が全国・全道を上回っており、女子では、正常の割合が全国・全道を下回り、

肥満及び痩身の割合が全国・全道を上回っている。中学校2学年男子は、正常の割合が全国・全道を下回り、軽度肥満及び痩身の割合が全国・全道を上回る傾向にあり、女子では、正常の割合が全国・全道を上回り、肥満及び痩身の傾向なしとなっている。

次に実技に関する調査結果であるが、小学生では男女とも握力だけが全国・全道を上回った結果となっており、AからEの5段階で評価する総合評価では、男子は、AとBの上位段階を占める割合が全国・全道を下回り、Cの段階を占める割合が全国・全道を大きく上回っている。女子は、DとEの下位段階を占める割合が全国・全道を上回っている。前年度は、男子がAの段階を占める割合が全国・全道を上回り、女子がAとBの上位段階を占める割合が全国・全道を上回っていたことから、前年度に比べ体力の低下が見られている。中学校の調査結果では、男子は全種目で全国・全道を下回り、女子は握力・20mシャトルラン・50m走・立ち幅とびの4種目で全国・全道を上回る結果となった。総合評価では、男子はAとBの上位段階を占める割合が全国・全道を大きく下回り、Dの段階を占める割合が全国・全道を上回っており、女子はBの段階を占める割合が全国・全道を大きく上回り、DとEの下位段階を占める割合が皆無となっている。前年度は、男子はAの段階を占める割合が全国・全道を上回り、女子はAの段階を占める割合が全国・全道を上回り、Cの段階を占める割合が全国・全道を下回っていることから、中学生においても体力の低下が見られる結果となった。

質問紙調査の結果による羽幌町の現状として、小学校5学年男子の運動に対する意識は、全国・全道と比較して高い状況にあるが、一週間の運動時間の平均値は、全国・全道と比較し低い状況にある。実技調査において、7種目が全国・全道を下回り、総合評価においても、AとBの上位段階を占める割合が全国・全道を下回り、Cの段階を占める割合が全国・全道を大きく上回る結果であることから、学校及び家庭等において、運動に対する取組方法の工夫が必要な状況となっている。小学校5学年女子の運動に対する意識は、全国・全道と比較して低い状況にあり、実技調査においても6種目で全国・全道を下回っている。総合評価においても、DとEの下位2段階を占める割合が全国・全道を上回る結果であることから、学校及び家庭等において、運動に対する取組方法の工夫が必要な状況となっている。中学校2学年男子の運動に対する意識は、全国・全道と比較して低い状況にあるが、一週間の運動時間の平均値は、全国・全道と同じ割合である。実技調査では、全種目で全国・全道を下回り、また、総合評価においてもAとBの上位段階を占める割合が全国・全道を下回り、Dの段階を占める割合が高いことから、学校及び家庭等において運動に対する取組方法の工夫が必要な状況となっている。中学校2学年女子の運動に対する意識は、全国・全道と比較して高い状況にあり、一週間の運動時間の平均値は、全国・全道とほぼ同程度である。実技調査では、4種目が全国・全道を、

2種目が全道を上回っており、総合評価においてもBの段階を占める割合が全国・全道を大きく上回る結果となっている。

羽幌町における今後の取組としては、家庭における運動意識の定着、学校における運動の基礎・基本の定着、地域における運動環境の整備が必要であるほか、学校・家庭・地域が連携した取組が重要と考えている。

**【主な意見、質問等】**

○実技調査の結果でD・Eの下位を占める割合が多いのは、運動に対する苦手意識が強いことが考えられる。AやBの上位の子は運動好きであると考えられるため、下位の子たちの底上げ・指導が必要である。例えば、コーディネーショントレーニングなど簡単に体を動かすこと取組から始めても良いと思う。

○コーディネーショントレーニングは、総合振興計画でもその必要性を掲げ、学校授業で少しずつ取り入れるなど普及に努めている。また、羽幌高校では生徒が生涯スポーツということで学び、その内容を小学校の児童へも指導している。今年度は、島の方で初めてコーディネーショントレーニングを行う予定としている。また、もう少し人材(指導者)の確保に取り組んでいく必要があると考えている。

ウ その他

**【主な意見、質問等】**

○学力・学習状況調査の結果で、ゲームなどに費やしている時間が多いということであったが、ある脳学者の話から、1時間ゲームをした後に2時間勉強しても内容が頭に入っていないという結果が出ている。このため、子どもの勉強に対する習慣づくりが大切であり、例えば学校だよりなどを使った啓発活動が重要と思う。

○そのとおりであるが、学校でルールを決め、学校だよりなどで何度も周知しているものの、なかなか浸透していない現状にある。

○効果が表れるには時間がかかり、繰り返し粘り強く続けていくことが必要である。

○例えば、1日毎に目標の達成状況を親子で確認する、それを繰り返すことで改善できないかという思いもある。

○文字離れも一つの要因と思う。学校だよりを見ても記載事項が多すぎると思うので、もう少し要点を絞っても良いと思う。

(2) その他

特になし

4 閉会（酒井地域振興課長）

省略